

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 5 月 20 日現在

機関番号：32653

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24591731

研究課題名(和文) 生体臓器ドナー候補者の「自発的意思」を確認するためのガイドラインの作成

研究課題名(英文) Development of a guideline to confirm voluntariness in living-related organ donation

研究代表者

西村 勝治 (Katsuji, Nishimura)

東京女子医科大学・医学部・臨床准教授

研究者番号：60218188

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：日本移植学会の倫理指針改定(2007年)によって、生体臓器の提供が自発的意思に基づくか否かの確認を精神科医などの「第三者」に求められた。日本総合病院精神医学会のワーキンググループにおいて臓器提供の自発性の評価、確認に関するコンセンサスを形成し、パブリックコメントを得て、生体臓器ドナーの意思確認のためのガイドラインを作成した。全国調査の結果、ドナー全例に「第三者」による面接が実施されている施設は腎臓では70%、肝臓で90%だった。意思確認の前提となる心理社会的評価についてはまだ情報が不足しており、今回我々が作成したガイドラインをもとに、今後さらに議論が必要と思われた。

研究成果の概要(英文)：The 2007 ethical guidelines of the Japan Society for Transplantation was the first to set out the requirement for "third-party" confirmation by a psychiatrist or other person, to confirm that the living organ is provided voluntarily by the donor. First, we built consensus on how to confirm the donor's voluntariness. This was done through discussions in a committee on organ transplant psychiatry of the Japanese Society of General Hospital Psychiatry. We then published "A Guideline to Confirm Decision-Making Involved in Living Organ Donation." Second, we conducted a nationwide survey to clarify the current status of third-party confirmation. Answers to a survey questionnaire were collected from 89 of the 126 kidney, and 30 of the 35 liver transplantation programs. In 70% of the kidney, and 90% of the liver transplantation programs, all donors underwent third-party interviews. Data concerning the psychosocial evaluation methods are insufficient. Further debate may be required in future.

研究分野：コンサルテーション・リエゾン精神医学

キーワード：生体臓器移植 ドナー 自発性 意思決定

1. 研究開始当初の背景

諸外国とは異なり、わが国の移植医療は生体臓器ドナー（以下、生体ドナー）に大きく依存している。2007年の日本移植学会の倫理指針改変に伴い、生体臓器の提供が自発的意思に基づくものであることを精神科医などの「第三者」が確認することが求められるようになった。しかしながら臓器提供の「自発性」をどのように評価し、確認するかについてのコンセンサスは未だ存在しなかった。また、意思決定に至るプロセスに対する望ましい支援の在り方についても同様であった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、わが国において移植医療に携わる各職種が柔軟に活用し、共有しうるような生体臓器ドナーの意思確認のためのガイドラインの作成であった。

3. 研究の方法

(1) 提供意思の「自発性」の確認をめぐる問題点の抽出

対象は2008年4月から2010年3月までの3年間に当施設で第三者面接を行った、連続した生体腎移植ドナー候補者474名のうち、意思決定能力が不十分とみなされたか、自発的提供意思が不十分とみなされて、意思決定のための積極的支援を必要とした候補者であった。

これら対象者の面接記録などを詳細にレビューし、第三者面接で意思確認を実施するにあたっての問題点（それらの問題が存在する場合、あるいは疑われた場合の対応、移植チームへのフィードバック、レシピエントや家族へのフィードバックなど）を抽出し、整理した。主たる抽出点は(a)臓器提供のための意思決定能力の問題（ドナーの自身のリスク・ベネフィット、レシピエントのリスク・ベネフィット、可能な代替治療についての理解や認識を評価）、(b)精神障害や知的障害、認知症の既往歴、現在症（意思決定能力との関連を評価）、(c)提供の動機の問題（提

供の強制や心理的圧力の存在、利益供与の存在の評価）であった。

(2) 提供意思の「自発性」の確認をめぐる問題点に対する対応の検討

上記の個々のケースに対する対応方法を以下のメンバーで検討した。(a)当施設において生体ドナーの第三者面接を担っている精神科医、臨床心理士、コーディネーター、(b)当施設以外で生体ドナーの第三者面接を担っている精神科医、臨床心理士、コーディネーター（日本総合病院精神医学会の移植精神医学ワーキンググループメンバー）、(c)日頃、移植医療には携わっていない精神科医や臨床心理士、(d)外部識者（医療倫理の専門家）、(e)移植医。さらに(b)において当施設以外で上がった問題点（特に生体肝移植ドナーにおけるもの）について同様に検討を行った。

(3) ガイドラインの作成

上記(1)(2)をもとに日本総合病院精神医学会の移植精神医学ワーキンググループのコアメンバーでガイドラインをまとめ、日本移植学会からのコメント、さらにパブリックコメントを得た。

(4) 「第三者」面接の実施状況に関する全国調査

当初、ガイドライン作成の準備として計画していたが、すでに同様の調査が日本移植学会によって実施されていたため、調査の重複をさけるために延期し、ガイドライン作成後に実施した。2013年に生体臓器移植を実施した126の腎移植施設、35の肝移植施設を対象として、「第三者」による面接の実施状況に関するアンケート（郵送）を行った。主たる調査項目は「第三者」面接の実施率、実施現状（誰が第三者を担っているか、面接構造、面接時期、自発的意思の評価基準）、意思決定支援の現状（移植に関する情報提供、意思決定のための考慮期間（cooling-off periods）の設定、家族が提供を理解していることの確

認、提供意思撤回の保障)であった。

4. 研究成果

(1) ガイドラインの作成

研究代表者が主担当となり、日本総合病院精神医学会治療戦略検討委員会・臓器移植関連委員会、移植精神医学ワーキンググループで「生体臓器移植ドナーの意思確認に関する指針」を作成し、日本総合病院精神医学会治療指針6として出版した。指針は以下の章から構成されている：「第三者」による意思評価が求められるに至った経緯、「第三者」の立場と役割、「第三者」面接の実際、考慮すべき事柄(意思決定能力が問われるケース、肝移植における生命的・時間的切迫の高い時) 他職種との連携と意思決定支援。

(2) 「第三者」面接の実施状況に関する全国調査

「第三者」を設置し、かつ「第三者」による面接がドナー全例に実施されている施設は腎臓では70%、肝臓で90%だった。腎移植では生体移植実施数が多いプログラムの方が少ないものよりも、「第三者」の設置率が高かった。最も多い「第三者」は精神科医だった(腎90%、肝83%)。ただし腎、肝ともに半数以上が当該倫理委員会から指名された「第三者」ではなかった。また、腎、肝各2施設でRTCが単独で「第三者」を担っていた。多くのプログラムが提供の意思撤回の権利の保障(腎70%、肝100%)、考慮期間の設定(腎88%、肝100%)、ドナー家族が提供を理解していることの確認(腎92%、肝97%)など、ドナー候補の意思決定を支えていた。多くのドナーにメンタルヘルス専門家がケアを提供していたが(腎86%、肝93%)、臓器を提供しないことを決断した候補者に対するメンタルヘルスのアフターケアの窓口を持っているプログラムは少数だった(腎15%、肝21%)。精神障害の既往のある人をドナーとすることに関して肝移植施設は腎移植施設に比べて慎重であった(腎80%、肝58%、

p = 0.026)。

以上から、「第三者」面接の実施状況は臓器、患者数などによって異なっていた。意思確認の前提となる心理社会的評価の方法などについてはまだ情報が不足しており、今回我々が作成したガイドラインをもとに、今後さらに議論されるべきと思われた。(Am J Transplantation に論文投稿中)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

1. 西村勝治、小林清香、菅原裕子、筒井順子、大下隆司、石郷岡純：わが国における臓器移植精神医学のこれまでとこれから．精神医学 57(4): 267-272, 2015 査読無
<https://www.igaku-shoin.co.jp/journalDetail.do?journal=36114>
2. 西村勝治：精神科医の役割．腎移植にかかわる医療従事者の役割と最新の知識．腎と透析 78(1): 26-29, 2015 査読無
<http://www.tokyo-igakusha.co.jp/fb/show/b01/755/zc01/3.html>
3. 小林清香、西村勝治、岡部 祥、石田英樹、田邊一成、石郷岡純：生体腎移植ドナー候補の提供意思における問題—自発的意思の確認のための“第三者面接”を通して— 健康心理学研究 27: 185-192, 2015 査読有
DOI :10.11560/jahp.27.Special_issue_185
4. 西村勝治、小林清香、筒井順子、菅原裕子、大下隆司、石郷岡純：臓器移植における精神科的介入．臨床精神医学 43(6): 865-871, 2014 査読無
<http://arcmedium.co.jp/publication01.php?a=201406>
5. 小林清香、西村勝治、石田英樹、尾本和也、白川浩希、清水朋一、岡部 祥、筒井順子、石郷岡純、田邊一成：生体腎移

植ドナー経験者は移植医療に満足しているか? 日本臨床腎移植学会雑誌 2(1): 68-73, 2014 査読有

<http://www.jamas.or.jp/user/database/Search/detail/scode/J06262>

〔学会発表〕(計 10 件)

1. 西村勝治、小林清香、筒井順子、石郷岡純: 「第三者」による生体腎ドナー候補者の意思確認に関する全国調査 . 第 48 回日本臨床腎移植学会、2015 年 2 月 4-6 日、ウェスティンナゴヤキャッスル(愛知県名古屋市)
2. 西村勝治、小林清香、筒井順子、石郷岡純: 「第三者」による生体臓器ドナー候補者の意思確認に関する全国調査 . 第 27 回日本総合病院精神医学会総会、2014 年 11 月 28-29 日、つくば国際会議場(茨城県つくば市)
3. 西村勝治、小林清香、筒井順子、石郷岡純: 「第三者」による生体臓器ドナー候補者の意思確認の現状と課題: 全国の移植施設に対するアンケート調査より . シンポジウム: 移植医療における多職種連携の現状と今後の展望 . 第 50 回日本移植学会総会、2014 年 9 月 10-12 日、京王プラザホテル(東京都新宿区)
4. 西村勝治: 生体ドナーの意思確認の実際: 腎移植 . シンポジウム: 臓器移植と精神医学の新たな展開(2): 生体ドナーの意思確認をめぐって . 第 110 回日本精神神経学会総会、2014 年 6 月 26-28 日、パシフィコ横浜(神奈川県横浜市)
5. 西村勝治: 臓器移植にみられる不安(障害) . シンポジウム: 身体疾患にともなう不安障害 . 第 6 回日本不安障害学会学術大会、2014 年 2 月 1-2 日、東京大学・山上会館(東京都)
6. Nishimura K, Kobayashi S, Tsutsui J, et al. Donor satisfaction in living-kidney

transplantation from donors related to the recipients—part 2: Associated factors. The Academy of Psychosomatic Medicine 60th Annual Meeting. Nov. 13-16, 2013, Tucson, USA

7. Nishimura K, Kobayashi S, Okabe S, et al. Factors related to low satisfaction with transplantation therapy in living related kidney donors. The International College of Psychosomatic Medicine 22nd World Congress. September 12-14, 2013, Lisbon, Portugal
8. 西村勝治、川寄弘詔、桂川修一、野間俊一、木村宏之: 生体臓器ドナーの意思確認に関するガイドラインの紹介 . ワークショップ: 生体ドナーに対する意思決定支援体制について ~ 現状と課題 ~ . 第 49 回日本移植学会総会、2013 年 9 月 5-7 日、国立京都国際会館(京都府京都市)
9. 西村勝治、桂川修一、川寄弘詔、小林清香、木村宏之、野間俊一: 生体臓器ドナーの意思確認のためのガイドラインの作成 . トピックフォーラム: 臓器移植と精神医学の新たな展開 . 第 109 回日本精神神経学会学術総会、2013 年 5 月 23-25 日、福岡国際会議場(福岡県福岡市)
10. 西村勝治: ドナーの適応に関する精神科的評価 . 卒後教育プログラム: 生体腎ドナーの術前評価と長期術後管理 . 第 101 回日本泌尿器科学会総会、2013 年 4 月 27 日、さっぽろ芸術文化の館(北海道札幌市)

〔図書〕(計 1 件)

1. 西村勝治(主担当)、川寄弘詔、光安博志、南里幸一郎、野間俊一、上原美奈子、井山なおみ、梅谷由美、小林清香、岡部祥、桂川修一、木村宏之; 日本総合病院精神医学会治療戦略委員会・臓器移植関連委員会: 生体臓器移植ドナーの意思確

認に関する指針・日本総合病院精神医学
会治療指針 6. 星和書店、東京、2013、
95 頁

〔産業財産権〕
出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

(1) 新聞掲載

1. 産経新聞(朝刊)2015年3月22日(社
会面)掲載「生体腎移植ドナー意思見極
めを」(同日、全国地方紙にも掲載)
2. 朝日新聞(朝刊)2013年5月24日(社
会面)掲載「臓器提供者の意思確認する
指針作成」

(2) 教育・研修

1. 西村勝治: 移植医療における精神医学的
評価(講義、グループワーク). 第2回
レシピエント移植コーディネーター・ア
ドバンスコース研修、日本移植コーデ
イナー協会(JATCO)、2015年2月
22日、東京大学(東京)
2. 西村勝治: RTC が知っておきたい精神医
学的知識とその活用(講義、グループワ
ーク). 第1回レシピエント移植コーデ
イナー・アドバンスコース研修、日
本移植コーディネーター協会
(JATCO)、2014年7月20日、東京大
学(東京)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

西村 勝治(NISHIMURA, Katsuji)
東京女子医科大学 医学部 臨床准教授
研究者番号: 60218188

(2) 研究分担者

小林 清香(KOBAYASHI Sayaka)
東京女子医科大学 医学部 臨床心理士
研究者番号: 40439807

興津 裕美(OKITSU Hiromi)
東京女子医科大学 医学部 助教
研究者番号: 40385399

筒井 順子(TSUTSUI Junko)
東京女子医科大学 医学部 臨床心理士
研究者番号: 20363624
(平成25年度以降)

石郷岡 純(ISHIGOOKA Jun)
東京女子医科大学 医学部 教授
研究者番号: 80142412

(3) 連携研究者
なし